

# ほ場整備関係遺跡発掘調査報告書

IX—2

1982

滋賀県教育委員会

財団法人滋賀県文化財保護協会

# ほ場整備関係遺跡発掘調査報告書

X—2

1982

滋賀県教育委員会  
財団法人滋賀県文化財保護協会

## 序

県下のは場整備事業に伴う埋蔵文化財の発掘調査はすでに9年目を迎え、種々の資料や成果が蓄積されているところです。

ところで、は場整備事業区域も年々増加の一途をたどり、それらの工事と平行して発掘調査が円滑に実施できるよう鋭意努力しておりますが、そうした中で得られた成果を公開し、地元へ還元していく作業もまた重要な責務と考えます。

この報告書は湖西地方において昭和56年度に実施した調査結果をまとめたものであります。近江の歴史研究の一助になれば幸いです。

最後に調査にあたり御助力を頂いた関係者ならびに関係諸機関の方々に感謝の意を表します。

昭和57年3月

滋賀県教育委員会事務局

文化部文化財保護課

課長 外 池 忠 雄

## 例　　言

1. 本報告書は、昭和56年度県営は場整備事業に伴う高島郡今津町構、コクリュウ寺遺跡の発掘調査の成果を収載した。
2. 調査は、県農林部からの依頼により、滋賀県教育委員会、滋賀県文化財保護協会が実施した。
3. 現地調査は、滋賀県教育委員会技師兼康保明の指導のもと、滋賀県埋蔵文化財センター嘱託山口順子、滋賀県文化財保護協会嘱託宮崎幹也が主任調査員となり実施した。
4. 調査に際しては、池田俊哉、松井 朗、和田光生、米田 実の協力を得た他、県農林部耕地建設課、今津県事務所土地改良課、今津町教育委員会、今津井ノ口、中ノ町、構の方々から種々の協力を得た。記して謝意を表する。
5. 本報告書の執筆、編集は宮崎幹也が担当した。
6. 出土遺物や、図面、写真は、滋賀県教育委員会で保管している。

## 目 次

1.はじめに .....	1
2.調査の概要 .....	3
(1) A地区の調査 .....	3
(2) B地区的調査 .....	9
(3) C地区的調査 .....	11
(4) D地区的調査 .....	14
3.まとめ .....	22

## 挿 図 目 次

第1図 周辺遺跡分布図 .....	2
第2図 調査位置図 (A地区～D地区) .....	4
第3図 A地区トレンチ配置図 .....	5
第4図 A地区土層柱状図 .....	5
第5図 第14図トレンチ遺構図 .....	6
第6図 A地区出土遺物 .....	7
第7図 B地区トレンチ配置図・土層柱状図 .....	8
第8図 B地区出土遺物 .....	9
第9図 C地区トレンチ配置図・土層柱状図 .....	10
第10図 第89トレンチ遺構平面図 .....	11
第11図 挖立柱建物遺構図 .....	12
第12図 C地区出土遺物 .....	12
第13図 D地区トレンチ配置図・土層柱状図 .....	13
第14図 第104トレンチ遺構図 .....	14
第15図 第120トレンチ遺構図 .....	16
第16図 D地区各トレンチ遺構図(1) .....	18
第17図 D地区各トレンチ遺構図(2) .....	19
第18図 D地区出土遺物 .....	21

## 図版目次

- 図版1 (上) 調査地近景  
(下) 調査前風景
- 図版2 (上) 第14トレンチ検出土壙  
(下) 第34トレンチ
- 図版3 (上) 第34トレンチ遺物出土状況  
(下) 第34トレンチ遺物出土状況
- 図版4 (上) 第89トレンチ  
(下) 第89トレンチ
- 図版5 (上) 掘立柱建物(北より)  
(下) 掘立柱建物(南より)
- 図版6 (上) 第104トレンチ  
(下) 第120トレンチ
- 図版7 (上) 第120トレンチ Pit I  
(下) 第110トレンチ
- 図版8 (上) 第106トレンチ  
(下) 第82トレンチ遺物出土状況
- 図版9 (上) 遺物出土状況  
(下) 遺物出土状況
- 図版10 (上) 遺物出土状況  
(下) 遺物出土状況
- 図版11 出土遺物
- 図版12 出土遺物

## 1. はじめに

本報告は、昭和56年度に実施した県営は場整備事業に伴う高島郡今津町構、コクリュウ寺遺跡の発掘調査報告である。

構遺跡、コクリュウ寺遺跡は、国道161号線が国道308号線（若狭街道）と合流する弘川の集落から、さらに北へ1kmの位置にあり、東方を国道161号線、西方を妙見山丘陵、南方を石田川左岸の福岡の集落、北方を今津北小学校のある構の集落に囲まれて、南北に並んでいる。

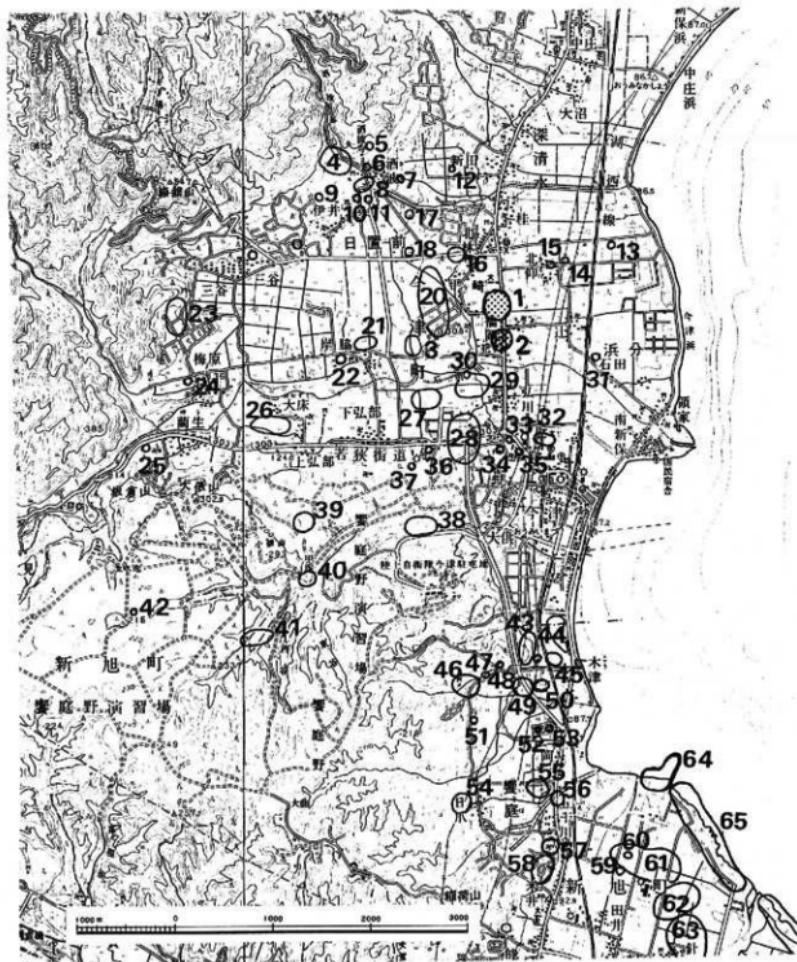
このうち北側に位置する構遺跡は城跡として周知されており、城郭関係の地名が小字名に残されている。また南側に位置するコクリュウ寺遺跡は寺院跡として周知されているが、同名の「コクリュウジセキ」と呼ばれる井堰が同地区内に残される他に、寺院関係の地名は小字名に残されていない。

このように両遺跡とも地名から推測される遺跡であるが、現状においても土師器を中心とする遺物の散布が要所に認められており、実存する遺跡に相異はない。

調査地の南方には、東進する石田川がある。石田川の右岸と左岸では、形成される土壤が異なり、右岸の安定したシルト層上には、弘川A遺跡、弘川B遺跡、高田館遺跡、杉沢遺跡などの多時期に及ぶ大規模聚落が立地するのに対し、左岸では氾濫による砂礫層の拵がりが広範囲に及び、岸脇遺跡、心妙寺遺跡等の遺跡が一部に認められるが、遺跡の所在は極めて少ない。構遺跡、コクリュウ寺遺跡は、この石田川左岸に立地しており、氾濫によって堆積した砂礫層とシルト層との互層した上に立地している。

調査は、は場整備の切土工事及び排水路工事によって影響の予測される個所にトレンチを設定し、必要に応じて拡張する方法を用いた。表土層および堆積土層の掘削には、0.4m級バックホウを用いたが、遺物包含層の掘削および遺構調査については、人力による手作業とした。

なお現地調査は、昭和56年7月から同年10月まで実施し、昭和57年3月までを整理期間とした。



第1図 周辺遺跡分布図

- |             |           |            |             |            |
|-------------|-----------|------------|-------------|------------|
| 1. 構遺跡      | 14. 白米塚遺跡 | 27. 杉沢遺跡   | 40. 甲塚遺跡    | 53. 女郎塚遺跡  |
| 2. コクリュウ寺遺跡 | 15. 興福寺遺跡 | 28. 弘川A遺跡  | 41. 小俵山遺跡   | 54. 日爪遺跡   |
| 3. 心妙寺遺跡    | 16. 平ヶ崎遺跡 | 29. 弘川B遺跡  | 42. 糸塚遺跡    | 55. 間遺跡    |
| 4. 酒波遺跡     | 17. 経塚遺跡  | 30. 高田船塚遺跡 | 43. 木津B遺跡   | 56. 堂の西遺跡  |
| 5. 酒波寺遺跡    | 18. 王塚遺跡  | 31. 信堂寺跡遺跡 | 44. 観音堂遺跡   | 57. 宝山寺遺跡  |
| 6. 西明寺遺跡    | 19. 構遺跡   | 32. 中川原遺跡  | 45. 光徳寺遺跡   | 58. 五十川城遺跡 |
| 7. 酒波東遺跡    | 20. 炒見山遺跡 | 33. ミコシ塚遺跡 | 46. 波瀬布神社遺跡 | 59. 円若寺遺跡  |
| 8. 十塚遺跡     | 21. 岸賀遺跡  | 34. 斉積塚遺跡  | 47. 木津A遺跡   | 60. 吉武城遺跡  |
| 9. 日置前遺跡    | 22. 王塚遺跡  | 35. 将軍塚遺跡  | 48. 木津製鉄遺跡  | 61. 川北遺跡   |

- |           |           |           |            |           |
|-----------|-----------|-----------|------------|-----------|
| 10. 蛇塚遺跡  | 23. 谷八幡遺跡 | 36. 円山塚遺跡 | 49. 美園遺跡   | 62. 針江北遺跡 |
| 11. チゴ塚遺跡 | 24. 梅ヶ原遺跡 | 37. 女郎塚遺跡 | 50. 建速神社遺跡 | 63. 針江中遺跡 |
| 12. 新田遺跡  | 25. 蘭生遺跡  | 38. 大供遺跡  | 51. 大塚遺跡   | 64. 森浜遺跡  |
| 13. 北仰遺跡  | 26. 大床遺跡  | 39. 上弘部遺跡 | 52. 藤原遺跡   | 65. 針江浜遺跡 |

## 2. 調査の概要

構遺跡とコクリュウ寺遺跡は、共に範囲と性格に不明な点が多いため、調査を一本化した上で、調査地区を南北に4分割し、南方よりA地区、B地区、C地区、D地区とした。なお、トレンチの名称については、調査順に第1トレンチ～第135トレンチとした。以後、地区毎に調査の概要を示す。

### (1) A地区の調査

大字福岡小字井ノ口の集落の北辺から約100mの範囲のA地区は、西部から東部にかけて約2mの高低差を示している。

A地区西部から北部にかけてのトレンチからは、遺物、遺構の存在は確認されなかったが、南東部の第74トレンチ、第75トレンチ、第76トレンチ、第77トレンチでは、遺物包含層が認められ、第14トレンチでは、焼土を伴った遺構が確認された。

第14トレンチでは、耕作土、暗褐色土、淡灰白色土の堆積土を除去すると褐色混疊土層に至り、同層上面において橢円形の土壤を確認した。

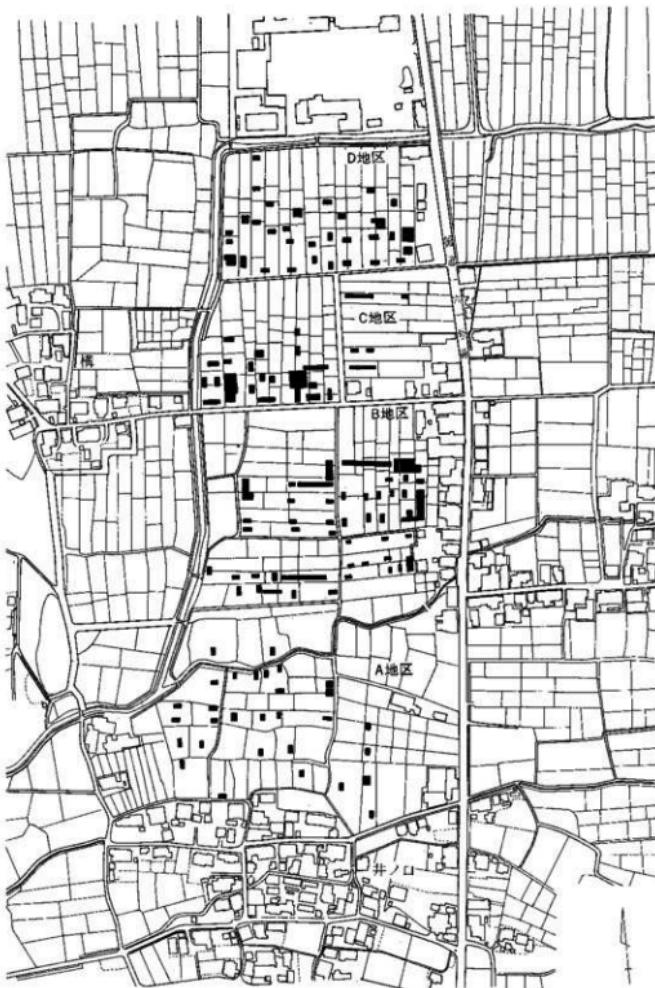
土壤は、南北2m90cm以上、東西2m10cm、深さ20cmを測る。遺構の基底部は淡青灰色土で形成されており、粘土の還元焼成した色調に酷似する。土壤の内部には、一部に焼土ブロックが認められるが、出土遺物はない。土壤の北側を確認する意味で第58トレンチを設定したが、第58トレンチ内では確認されず、第14トレンチと第58トレンチの間を区切る幅50cmの畦の中で、遺構の拡がりは終わると考えられる。

この土壤の性格については、土器製作に伴う窯跡とも考えられるが、現状が平坦である事や、上部が削平されている事から、不明な点が多い。

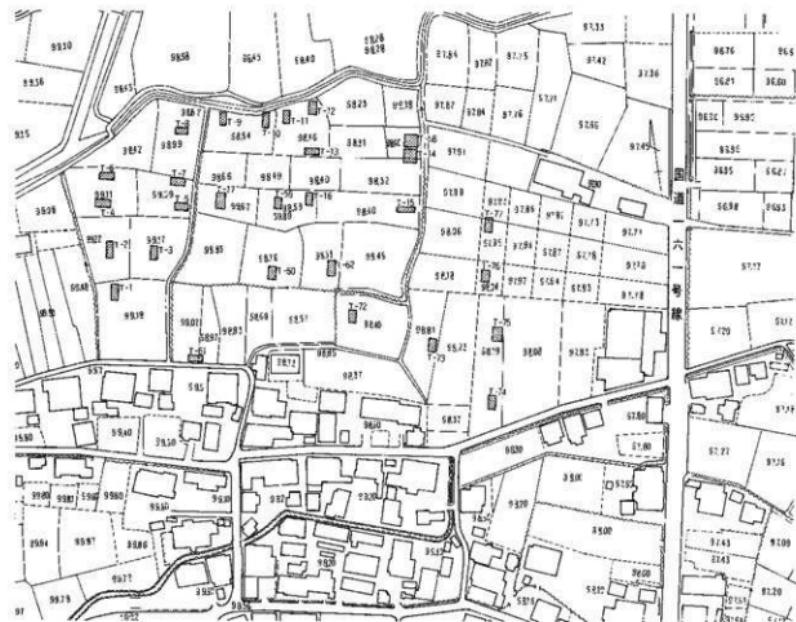
第74トレンチ～第77トレンチで検出した遺物包含層は、第75トレンチにおいて最も安定した包含層となり、大量の土師器、陶器、磁器、瓦質土器を出土した。

第75トレンチの基本土層は、第Ⅰ層（耕作土）、第Ⅱ層（暗褐色土）、第Ⅲ層（灰色土）、第Ⅳ層（黄褐色混疊砂質土）、第Ⅴ層（茶灰色土、遺物包含層）と続き、地山の黄灰色粘質土に至る。

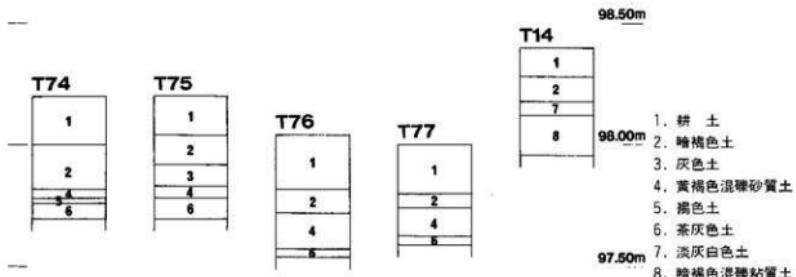
遺物包含層は、地表下40～60cmに位置し、土師器の皿（1～11）、須恵質土器の鉢（12）、陶器の鉢（13,14）、瓦質土器の鍋（15）、須恵質土器の甕（16）、陶器の甕（17）と磁器の皿や壺が出土した。



第2図 調査地位置図（A地区～D地区） 約4千分の1縮尺



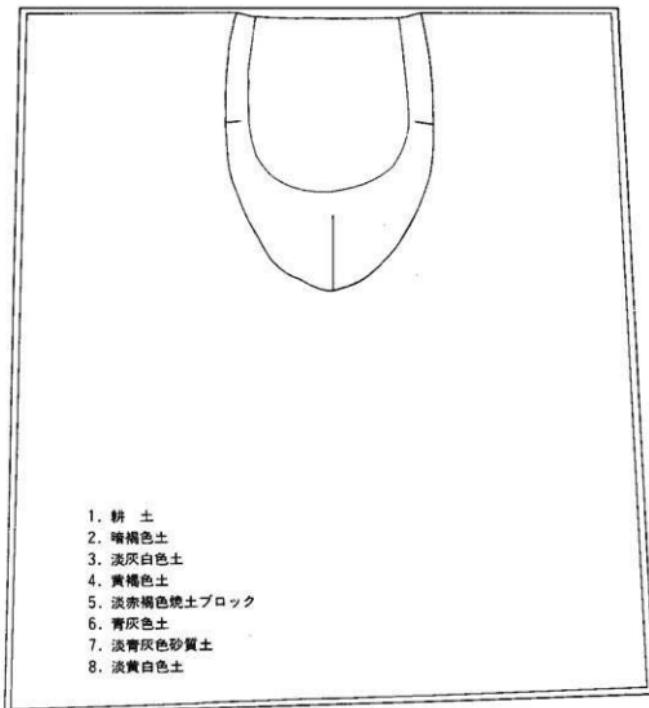
第3図 A地区トレーニチ配置図 約2千分の1縮尺



第4図 A地区土層柱状図

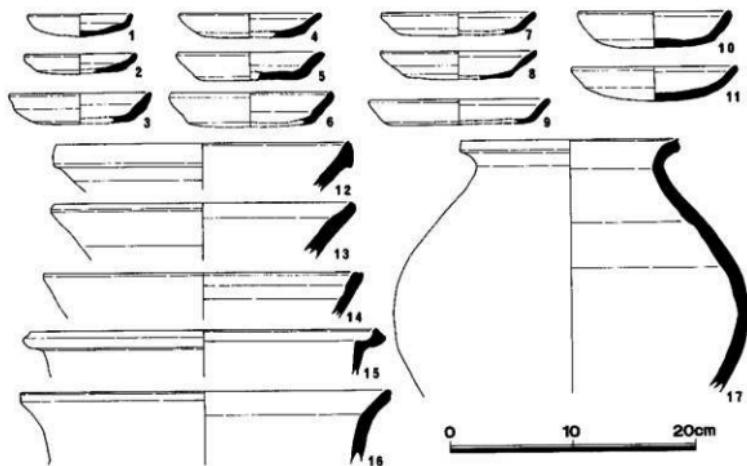


第14トレンチ



1. 耕 土
2. 暗褐色土
3. 淡灰白色土
4. 黄褐色土
5. 淡赤褐色焼土ブロック
6. 青灰色土
7. 淡青灰色砂質土
8. 淡黃白色土

第5図 第14トレンチ遺構図



第6図 A地区出土遺物

土器の皿は、口径8.6~9.2cmの小皿と、口径11.5~13.4cmの大皿があり、出土量は小皿が多く、大皿が少ないが、小皿の多くは細片化している。

須恵質土器の鉢（12）東部播磨地方の産であり、淡灰色の体部と暗灰色の口縁部を持ち、口縁部外面に重ね焼きが認められる。

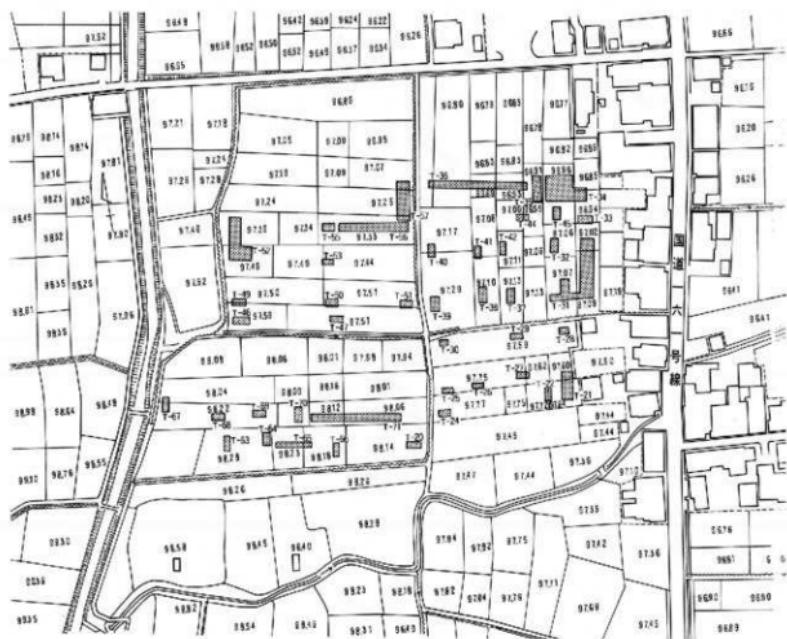
陶器の鉢は、淡灰白色を呈するもの（13）と、淡黄褐色を呈するもの（14）がある。

瓦質土器は、口縁の上端部を外方に屈曲させる鍋（15）で、器壁の厚い口縁部と器壁の薄い体部から構成される。体部の調整は、内外面共にナデである。

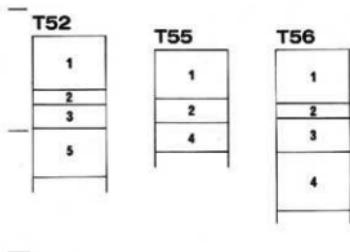
陶器の壺（17）は、常滑系の産であり、口縁部はN字化していない。

この他の遺物には、青磁の小皿・白磁の多耳壺などがあるが、いずれも細片化している。

以上の第75トレンチ出土遺物は、遺構に伴わない包含層からの出土遺物であるが、12世紀後半から13世紀中葉頃の短期間の時期を示す資料と考えられる。



- 1. 耕 土
- 2. 床 土
- 3. 黄褐色土
- 4. 増褐色粘質土(遺物包含層)
- 5. 増灰褐色粘質土



第7図 B地区トレチ配置図・土層柱状図

## (2) B 地区の調査

A 地区の北側にあたる B 地区は、かねてより土師器等の遺物散布が多く認められるところであり、コクリュウ寺遺跡の中心と考えられていた。

この一帯は、A 地区よりも標高の低いところであるが、東西の標高差が A 地区よりも小さく、平坦な地形を呈している。

B 地区の調査では、北部のトレンチにおいて遺物包含層を確認した。

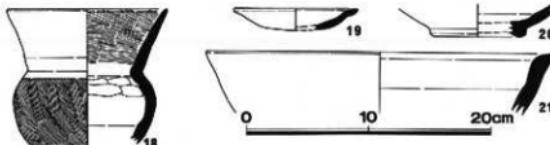
遺物包含層を明瞭に検出したのは、第56トレンチ、第57トレンチであり、地表下約50cmで暗褐色粘質土（遺物包含層）に至る。同遺物包含層は、約15~20cmの厚さを測り、布留式土器のみを包含する。出土遺物の大半は、遺存状態が悪く、細片化しているが、(18)のみは完成品に近い状態で出土した。

(18) は布留式土器の小形丸底壺で、底部を欠損する他は、実存する。色調は暗褐色を呈し、体部外面と口縁部内面にナデ調整を残し、在地色の濃い土器である。

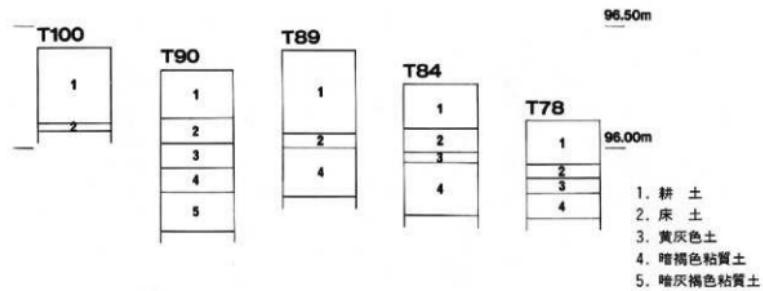
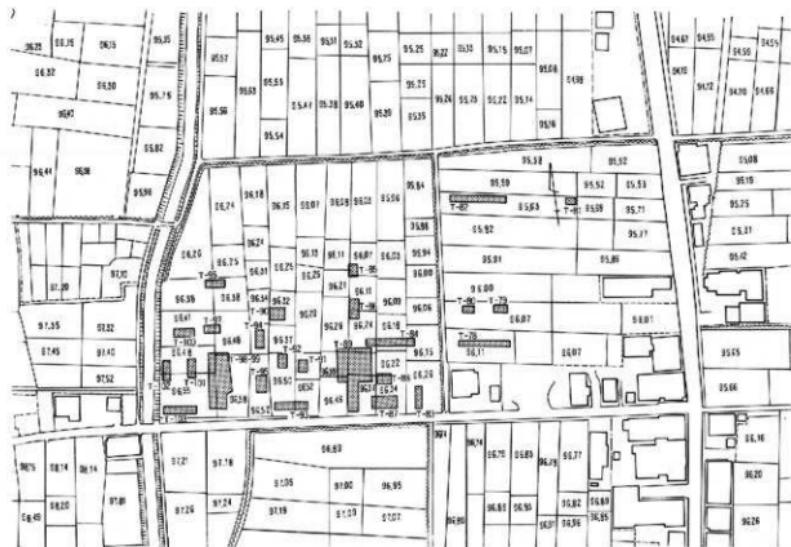
また、第34トレンチ、第35トレンチ、第36トレンチでは、地表下約20cmの浅い位置から細片化した多数の布留式土器と若干量の土節器（19）、陶器（20, 21）が出土した。

これらの土器は、遺構に伴うものでも無く、遺物包含層に伴うものでも無く、後世の整地行為によって細片化し、一箇所に寄せられたものと考えられる。また、共にする遺物は同整地行為の年代を据える資料と考えられる。

(19) は土師器の小皿、(20) は椀の底部、(21) は擂鉢の口縁部である。



第8図 B地区出土遺物



第9図 C地区 トレシ配置図・土層柱状図

### (3) C地区の調査

4つの調査地区のうち最も標高が高くなるのが、C地区である。C地区は、地図上の構造跡とコクリュ寺遺跡の中間にあたるが、先のB地区の調査で確認した遺物包含層の拡がりが予測され、遺物包含層の範囲の追求と遺構の検出に努めた。

調査の結果、遺物包含層である暗褐色粘質土を全調査トレンチで確認し、第89トレンチにおいて掘立柱建物の遺構を検出した。

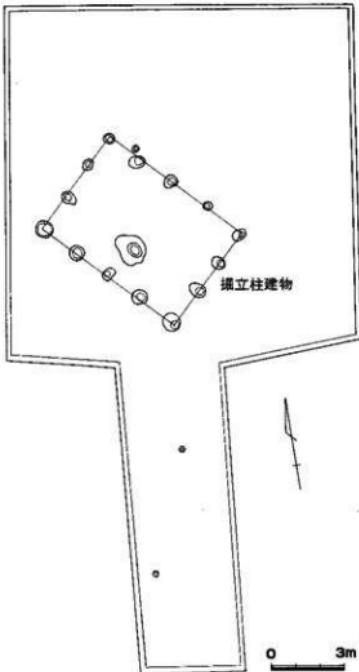
遺物包含層に含まれる遺物には、土師器と須恵器が認められるが、いずれも少量の破片であり、全体の明らかなものは少なく、第78トレンチから須恵器の杯身(26)、第82トレンチから須恵器の杯蓋(24)、第84トレンチから土師器の甕(22)と台付甕の脚台(23)、第89トレンチから須恵器の杯身(25)が出土しているに過ぎない。

また、上層の堆積土からも若干量の遺物が出土した。第78トレンチからは灰釉陶器の甕(29)、第83トレンチからは須恵器の高台付杯身(27)と甕の底部(28)、第84トレンチと第98トレンチからは信楽焼の捕鉢(31)、30)が出土している。

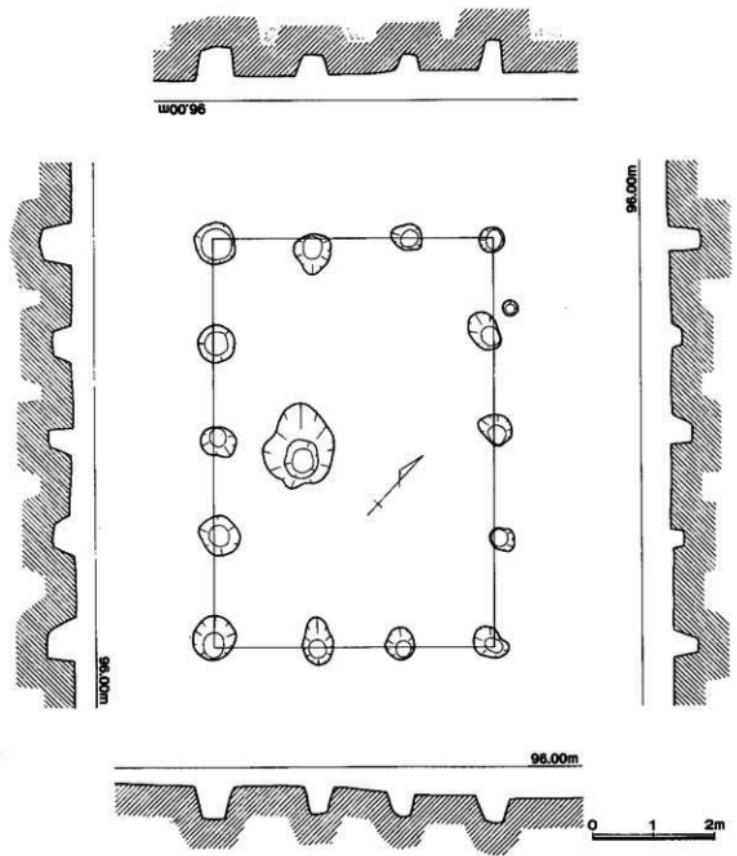
第89トレンチからは、掘立柱建物の遺構が確認された。遺構は、梁行三間(4m×70cm)、桁行四間(6m×70cm)を測り、主軸をN44°Wに持つ。

また、建物西辺の内側には、南北1m×40cm、東西1m×20cmの土壤があり、燒土と土師器の破片を少量ずつ出土した。

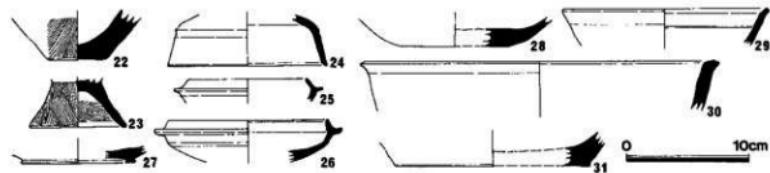
掘立柱建物は第89トレンチにおいて1棟のみ検出されたが、周辺のトレンチからは関連する他の建物遺構を検出することができなかった。また建物の年代についても、柱穴内には全く遺物が含まれておらず、決定づけることができないが、同トレンチ包含層出土の遺物から6世紀後半以降のものとされよう。



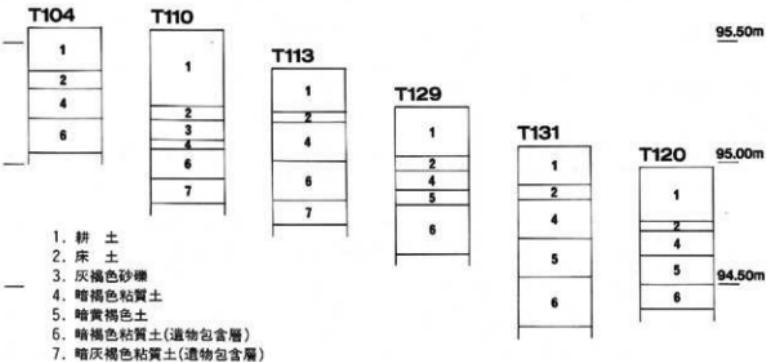
第10図 第89トレンチ遺構平面図



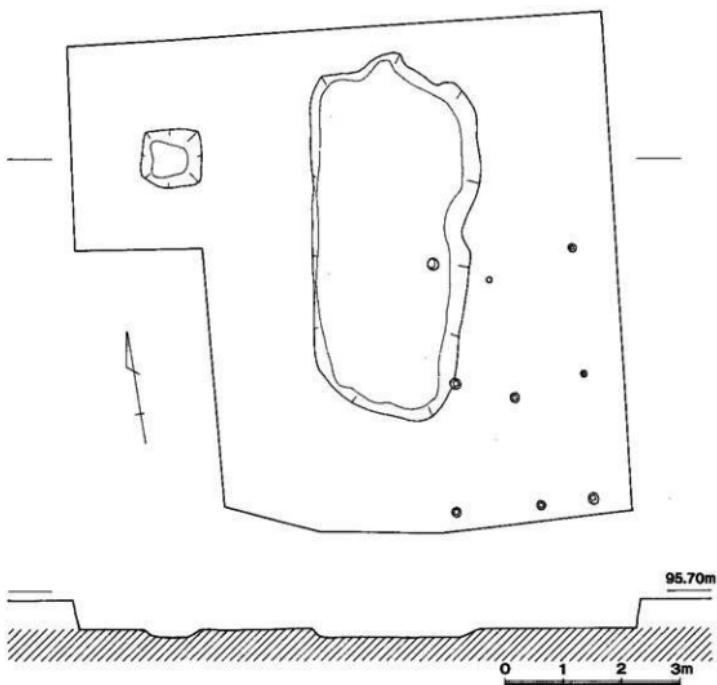
第11図 掘立柱建物造構図



第12図 C地区出土遺物



第13図 D地区 トレーンチ配置図・土層柱状図



第14図 第104トレンチ遺構図

#### (4) D地区の調査

D地区の調査は、C地区で検出した掘立柱建物に関連する遺構の追求を中心に実施し、C地区よりも密度の高い遺構を確認した。

これらの遺構は、地表下50~60cmに多く認められ、その上層に耕土、床土、暗褐色粘質土、暗黄褐色土、暗褐色粘質土、暗灰褐色粘質土の堆積が認められる。このうち暗褐色粘質土と暗灰褐色粘質土は、いざれも遺物包含層であり、上下に重層する。

このうち調査区の全域に広がる遺物包含層は、上方の暗褐色粘質土であり、遺物の包含量が下層の暗灰褐色粘質土より多い。また、遺物の年代差を比べると、その時期差は無く、むしろ古い時期の遺物は上層の暗褐色粘質土中に多く含まれる。

遺物包含層の下層には、一部に砂礫層が認められるが、大半が安定したシルト層が拡がり、遺構の立地が4つの調査区の中で最も適している。

## 【遺構】

### 第104トレンチ

調査区の西端に位置する第104トレンチからは、二基の土壙を検出した。一基の土壙は、正方形に近いプランを持ち、南北1m・東西1m・深さ15cmを測る。もう一基の土壙は、橢円形プランを持ち、南北6m30cm・東西2m90cm・深さ20cmを測る。埋土は、いずれも単純一層であり、後者からは土器片の碗と高杯が出土した。

### 第105トレンチ・第107トレンチ

南北方向に伸びる溝を検出した。第105トレンチの溝は、幅1m25cm~1m60cm・深さ30cmを測り、第107トレンチの溝は、幅60cm~80cm・深さ25cmを測る。二条の溝は近接する別個の遺構と考えられ、第105トレンチの溝は第3層上面から、第107トレンチの溝は遺構面から掘り込まれている。

### 第108トレンチ・第110トレンチ

直径18cm~30cmの柱穴を検出した。いずれも遺物包含層の上面から掘り込まれており、遺物の年代よりも新しい時期の遺構である。

### 第113トレンチ

トレンチの西端で南北1m35cm・東西90cm以上・深さ30cmの土壙を検出した。この土壙は、遺物包含層の掘削後に確認されている。遺物は出土していない。

### 第120トレンチ

D地区の最東端において多数の柱穴群を検出し、同じに大量の遺物を出土した。

柱穴は直径20cm~80cmを測り、土壙と混在する。これらの柱穴は掘立柱建物を構成するものと思われるが、性格に平面形を追求できるものは無い。

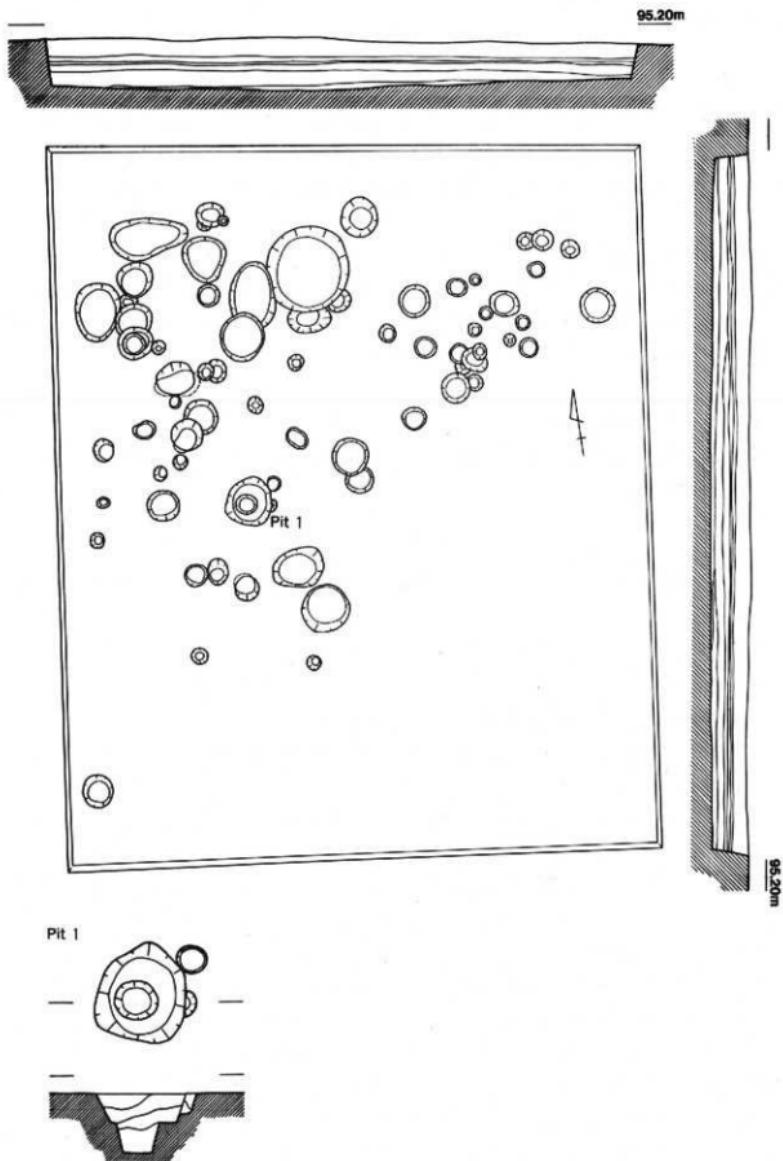
柱穴は、いずれも柱の抜き取りが考えられ、掘形と柱穴の区別が困難である。Pit 1は掘立柱建物のコーナーの柱穴と考えられるが、その断面状況にも掘形と柱穴を区別する土層堆積は認められない。これは先に記したC地区第89トレンチで検出した掘立柱建物にも共通している。

### 第121トレンチ・第128トレンチ

直径15~18cmの柱穴と南北方向に伸びる幅30~40cm・深さ15cmの溝を検出した。いずれの遺構も第120トレンチ同様に暗褐色粘質土（遺物包含層）掘削後に検出しており、地山に直接掘り込まれた遺構である。

### 第131トレンチ・第134トレンチ

トレンチの端で土壙を検出した。いずれも地山に直接掘り込まれており、第131トレンチの土壙は南北1m80cm以上・東西3m90cm以上・深さ16cmを測り、第134トレンチの土壙は南北60cm以上・東西1m95cm・深さ55cmを測る。共に若干量の土器片を含んでいる。



第15図 第120トレンチ遺構図

また第134トレンチにおいては、先の土壤埋土を掘り込んだ柱穴が認められる。

## 【遺 物】

### 第104トレンチ

梢円形平面の土壤から土師器の椀（32～36）と高杯（37～40）が出土した。

椀は口径10.4～12.0cm・高さ4.7～5.0cm規模のもので、形状から平底のもの（32・33）と丸底気味のもの（34～36）に分かれる。

（32・33）は成形が粗雑で、内面と外面上にハケを残す。（34～36）は成形がていねいであり、胎土も良質のものが使われている。（34）は内外面上にハケを残すが、（35・36）はハケの後、ていねいなナデ調整が施されている。

高杯は、口径12.6～18.0cm・高さ12.0～12.6cmを測り、わずかに口径が器高を上回る傾向が認められる。

（37）は受部内外面上にハケを残し、（39）は受部外面にハケを残すが、（38・40）はハケの後、ていねいにナデ調整される。

遺構以外からの出土遺物としては、弥生時代終末期の高杯（104）が遺物包含層より出土した。（104）は口径28.7cm・高さ6.4cmを測り、脚部を欠損する。口縁部は屈曲して斜上方に伸び、外面に三条の凝凹線を施す。胎土は良質で、ていねいにナデ調整される。丹後地方の器形を呈している。

（104）は、堆積土中より出土した信楽焼の擂鉢である。

### 第107トレンチ

第3層上面より黒色土器の底部（63）が出土した。底径4.8cmを測り、断面三角形を呈する高台が貼り付く。遺存状態は悪い。

### 第120トレンチ

遺物包含層より須恵器（41～55）、土師器（57～62）が出土した。D地区で須恵器の出土が認められるのは第120トレンチを中心とした東端の地区に限られる。

須恵器は、有蓋高杯の蓋（41～44）と脚部（53～55）、蓋杯の杯蓋（45）と杯身（46～52）がある。

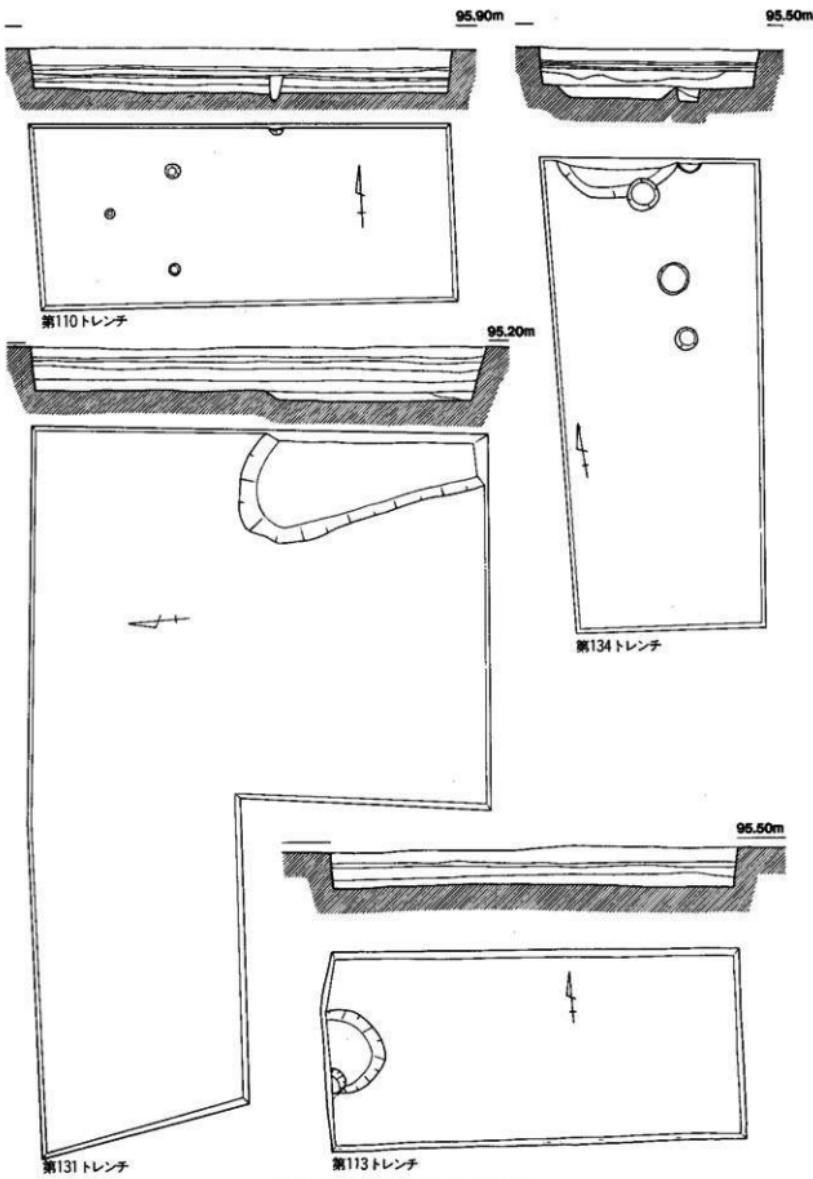
有蓋高杯の蓋は、中心付近まで回転ヘラ削りされた天井部に、中央の凹んだ偏平なつまみが伴う。（44）の下端部には内傾した凹面が認められる。

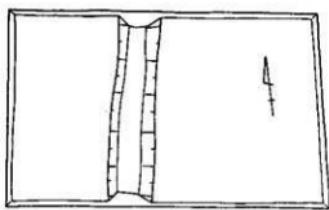
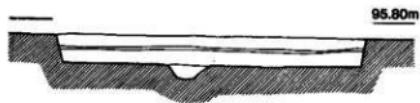
有蓋高杯の脚部は、底径6.4～10.6cmを測り、下端の形状は底径の小さい物が内傾し、底部の大きいものが外方に開く。

蓋杯の蓋（45）は、口縁部の下端に内傾する凹面を持ち、丸みを帯びた天井部を持つ。

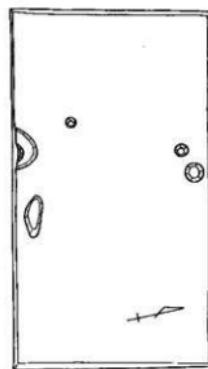
蓋杯の杯身（46～52）は、時期幅を持つ遺物であり、口縁部のたちあがりの大きいもの（46～50）と小さいもの（51・52）がある。このうちで最も古い形態を示すのは（46）で、口縁上端に内傾する凹面を持ち、底部外面の約8割に回転ヘラ削りが認められる。

土師器には甕（57～61）と瓶（62）がある。

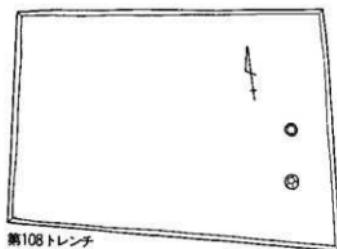




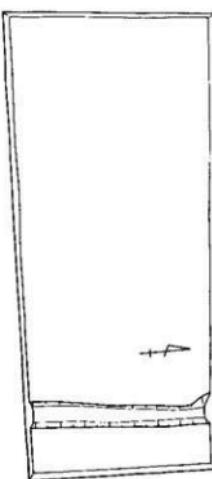
第107トレンチ



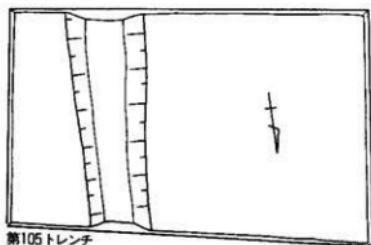
第121トレンチ



第108トレンチ



第128トレンチ

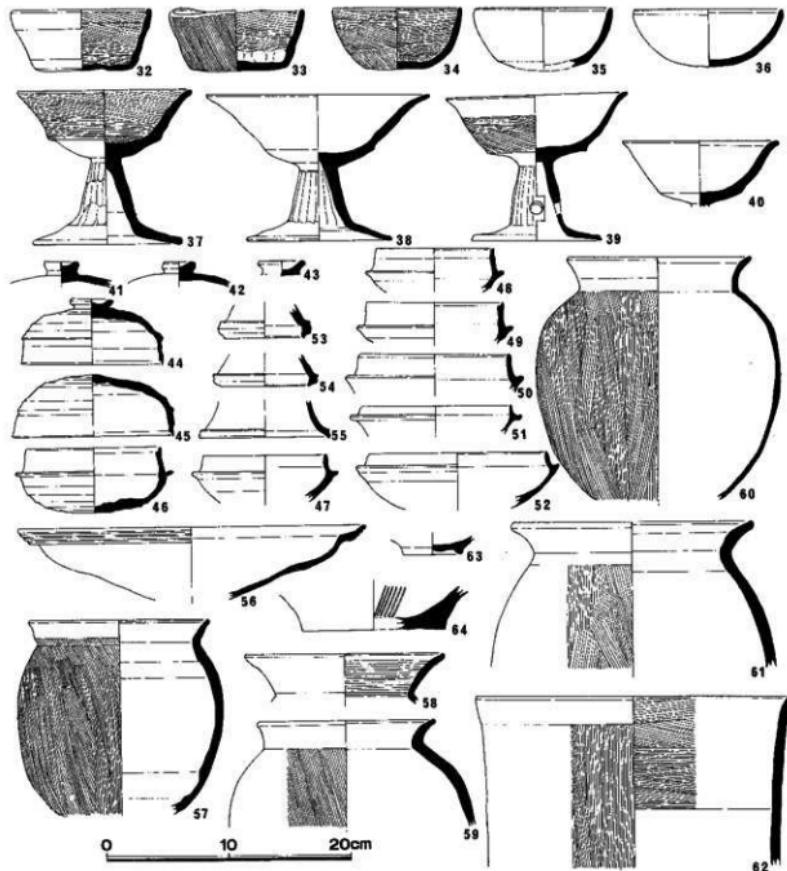


第105トレンチ

第17図 D地区各トレンチ造構図(2)

甕はいずれも胴径よりも器高が勝るが、器壁の薄いもの（58・60）と厚いもの（57・59・61）がある。（58）は口縁部内面にハケを残し、（57・59・61）は体部外面にハケを残す。

瓶（62）は口径25.8cmを測り、内外面にハケを残すが、口縁部外面の上端のみナデ調整が認められる。



第18図 D地区出土遺物

### 3. まとめ

今回の調査では、今まで実態の明らかでなかった構造跡とコクリュウ寺遺跡の様相が幾分明らかにされたため、以下に両遺跡の概要を記し、まとめに変えたい。

構造跡は、城郭遺跡として周知されてきたが、今回の調査では関連遺構を捉えることはできなかった。しかしながらC地区からD地区に及ぶ範囲に古墳時代中期の集落跡を確認したため、今後、この時期の遺構も構造跡に含んで理解するに至った。

古墳時代の遺構と判断されるのは、C地区第89トレンチの掘立柱建物、D地区第120トレンチの柱穴群、同第104トレンチの土壙をはじめ、特にD地区東部に集中している。この遺構の拡がりは、調査区の東端を区切る国道161号線を超えるものと予想される。

遺構のうちで最も古いものは第104トレンチの梢円形平面の土壙であり、須恵器を含まない土器の一群を出土した。遺構については、検出当初に住居跡か工房跡を想定していたが、床面に柱穴や壁構を伴わないので、性格不明の土壙とした。この遺構からの出土遺物は、土器の碗と高杯に限られており、遺構の性格上で須恵器を共存しないのか、須恵器を伴わない古式土器の一群であるのか、判断は極めて微妙である。土器の時期としては、布留式土器新段階併行期か、もしくは同時期に後続する時期が想定される。

碗や高杯の内外面にハケを残しナデ調整されないのは、近江に認められる土器製作上の地域色の一つとして理解される。

第89トレンチの掘立柱建物と第120トレンチの柱穴群は、遺物包含層の最も新しい時期の遺物から、6世紀後半と判断したい。第89トレンチの掘立柱建物は主軸の方位から、南北棟であるのか、東西棟であるのか判別し難いが、周辺の調査状況から、独立した建物と判断される。遺構が密集するのは第120トレンチの北部であり、遺跡の中心と判断される。建物の柱穴形状からは、掘形と柱穴が区分できず、件の抜き取りが予想される。

出土遺物の中には、5世紀後半の須恵器が多く認められるが、土器の傾向には6世紀後半のものが多く、掘立柱建物の採用時期の判断に微妙な影響を与えていている。

次にコクリュウ寺遺跡は、寺院伝承地として周知されてきたが、構造跡と同様に間違する遺構は検出されなかった。遺跡としてはB地区出土の土器があげられるが、これらの遺物の多くは整地時に敷かれたものと判断される。

遺物の時期は、布留式土器中段階併行期から新段階併行期のものと、13世紀以降のものに分かれ、新しい時期から整地行為の年代が予想される。

この整地行為については当遺跡のみならず、高島郡内の要所で認められるが、最も顕著な例としては新旭町堀川遺跡例があげられる。同遺跡は6世紀から12世紀に至る複合集落跡として周知されているが、12世紀の建物遺構の上部が削平されて検出されることが多い。この削平された面には、乾田特有の鉄分堆積が認められ、コクリュウ寺遺跡に共通する。コクリュウ寺遺跡のうちで遺構の削平が認められるのは第14トレンチの土壙である。この土壙削平面にも鉄分堆積が認められ、コクリュウ寺遺跡の整地行為が13世紀以降の実施であり、水田の乾田開発に伴うことが予測される。

コクリュウ寺遺跡は、本来古墳時代中期の集落が存在し、中世の整地行為によって姿を変化させたものであろう。

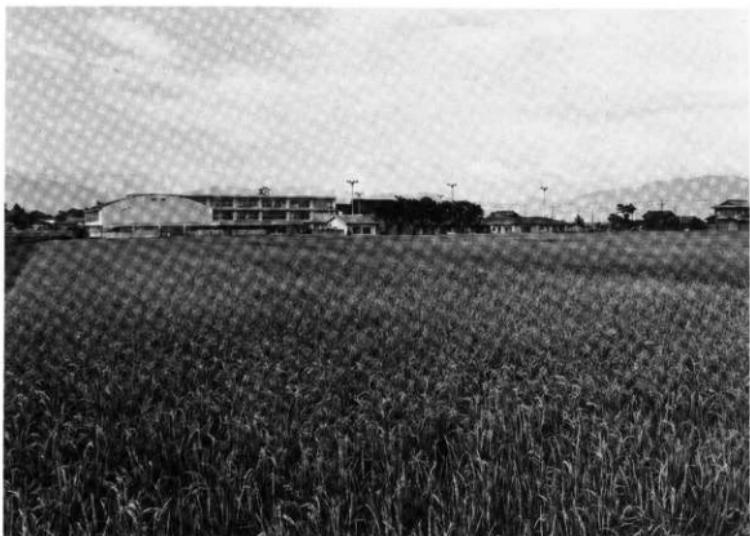
最後にA地区で確認した12世紀後半から13世紀中葉に及ぶ時期の包含層は、その東方と南方に同年代の遺跡の  
拡がりを予測させ、これを井口中川原遺跡として新たに確認した。

以上の事から、これまで遺跡分布の実態は明らかでなかった石田川左岸部において、古墳時代集落と中世遺物  
散布地を確認し、さらに中世の整地行為を認めるに至った。各集落の拡がりと性格の追求は今後の課題であり、  
整地行為の正確な意味づけについても、今後の調査によって明らかにされよう。

## 図 版



調査地近景



調査前風景



第14 トレンチ 検出土塊



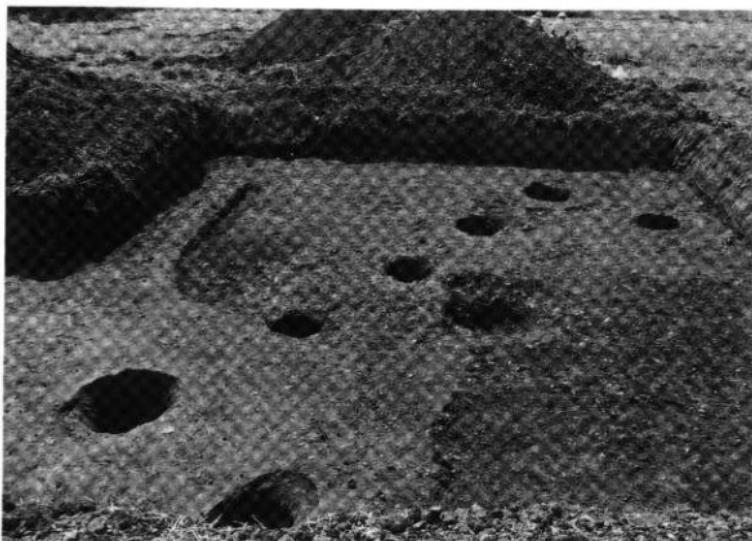
第34 トレンチ



第34 トレンチ 遺物出土状況



第34 トレンチ 遺物出土状況



第89 レンチ



第89 レンチ



掘立柱建物（北より）



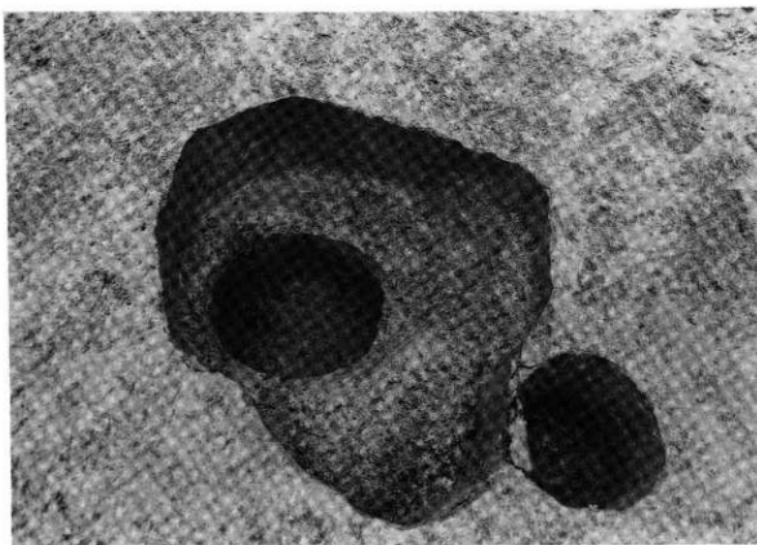
掘立柱建物（南より）



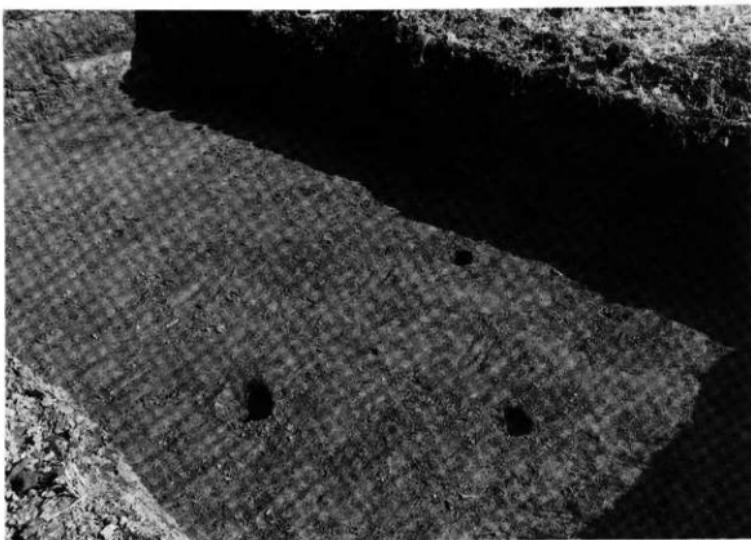
第104 トレンチ



第120 トレンチ



第120トレンチ Pit 1



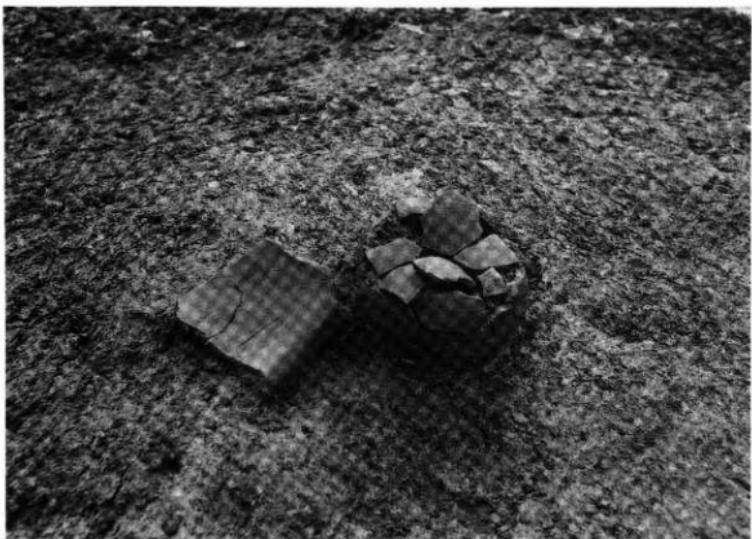
第110トレンチ



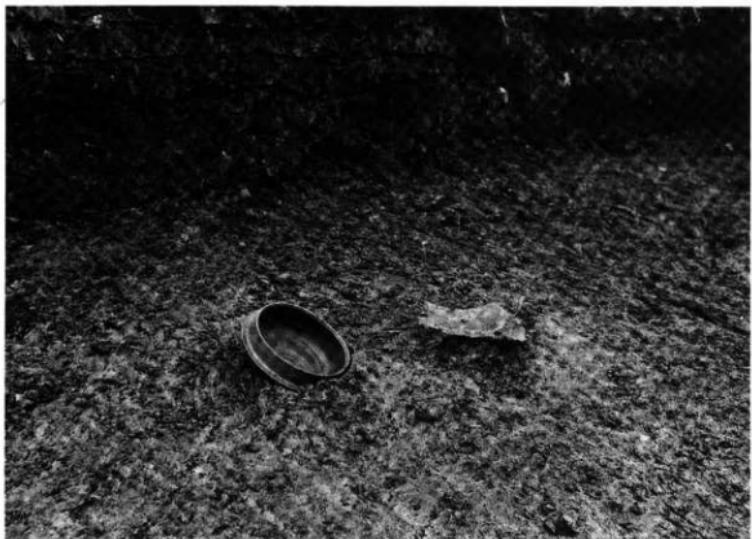
第106トレンチ



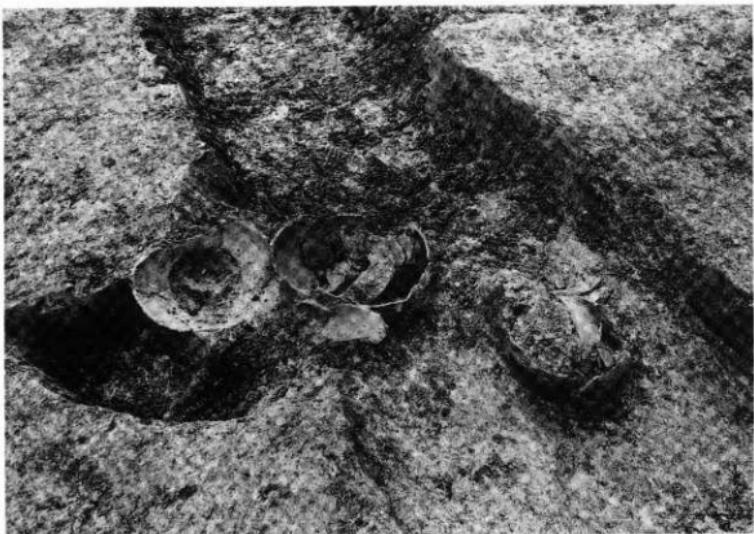
第82トレンチ 遺物出土状況



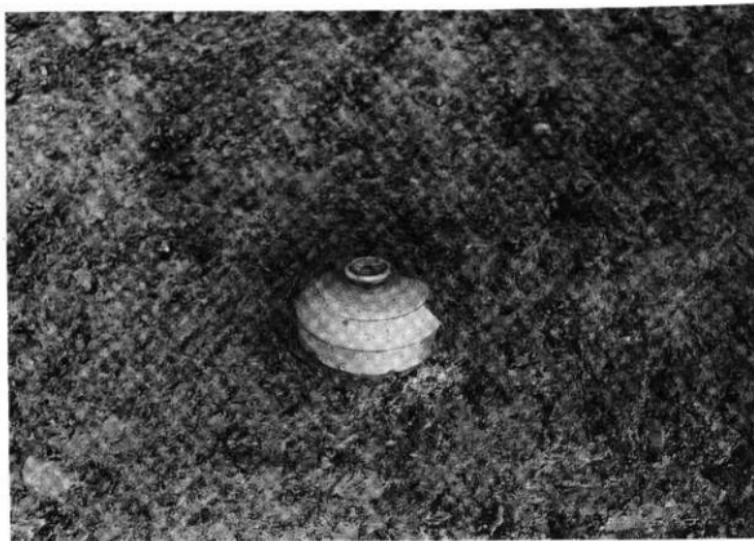
遺物出土狀況



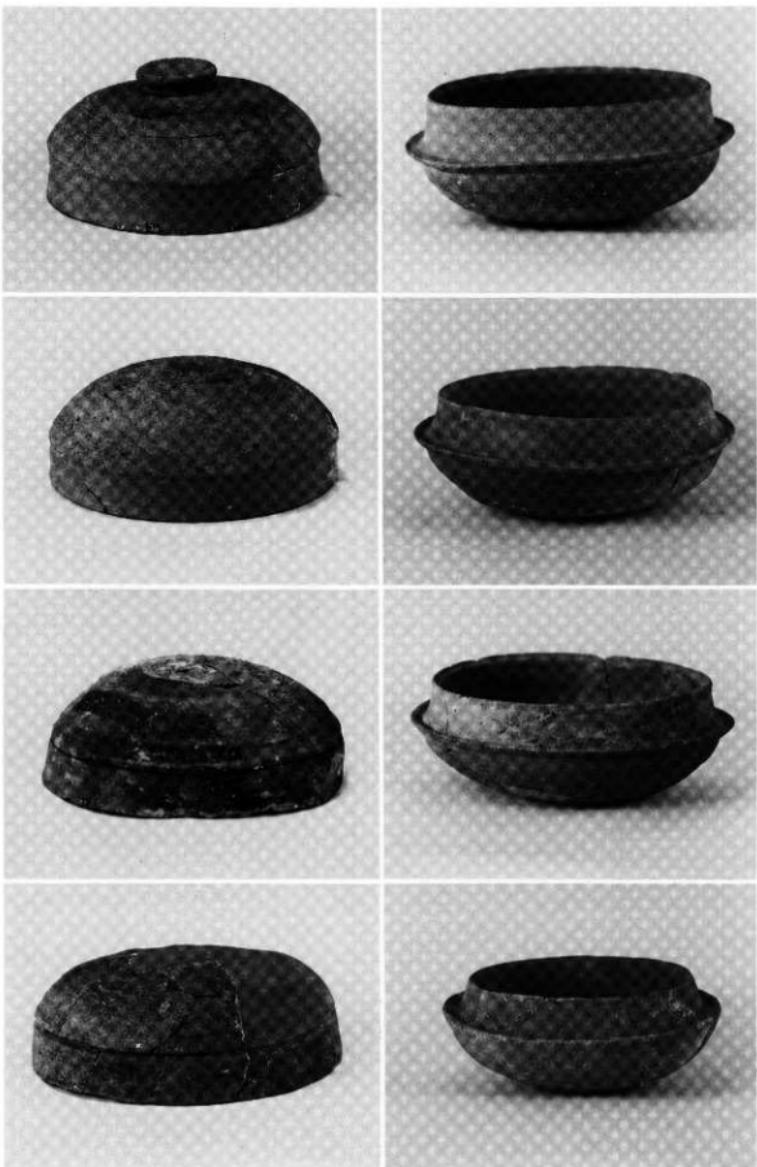
遺物出土狀況



遺物出土狀況



遺物出土狀況



出土遺物



出土遺物

昭和57年3月

ほ場整備関係遺跡発掘調査報告Ⅸ—2

編集 滋賀県教育委員会

発行 滋賀県教育委員会

財団法人 滋賀県文化財保護協会

印刷 中西印刷株式会社

京都市上京区下立売通小川東入

T E L (075) 441-3155~8